

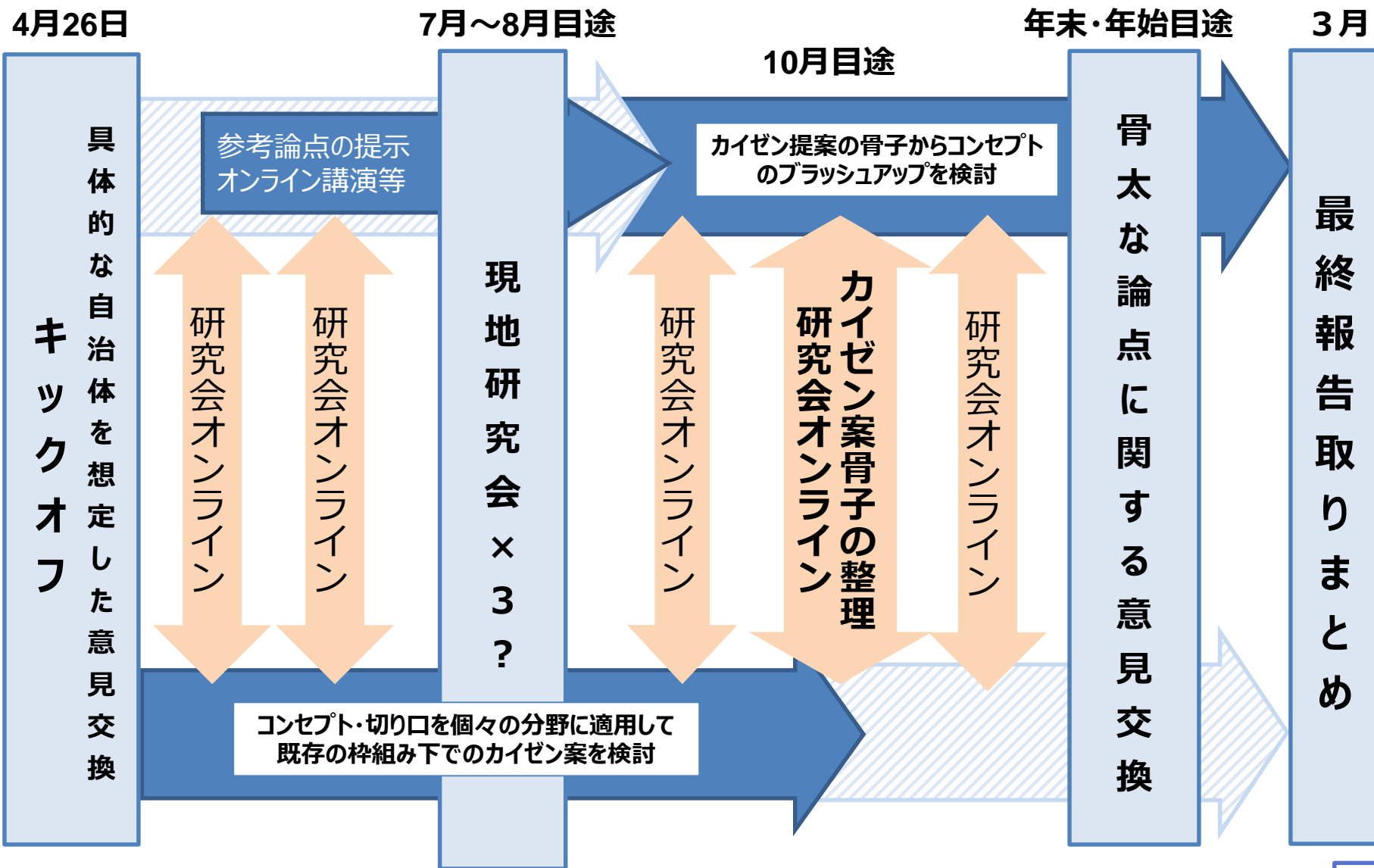
4月26日の研究会議論を踏まえた整理ペーパー

研究会の進め方（案）について

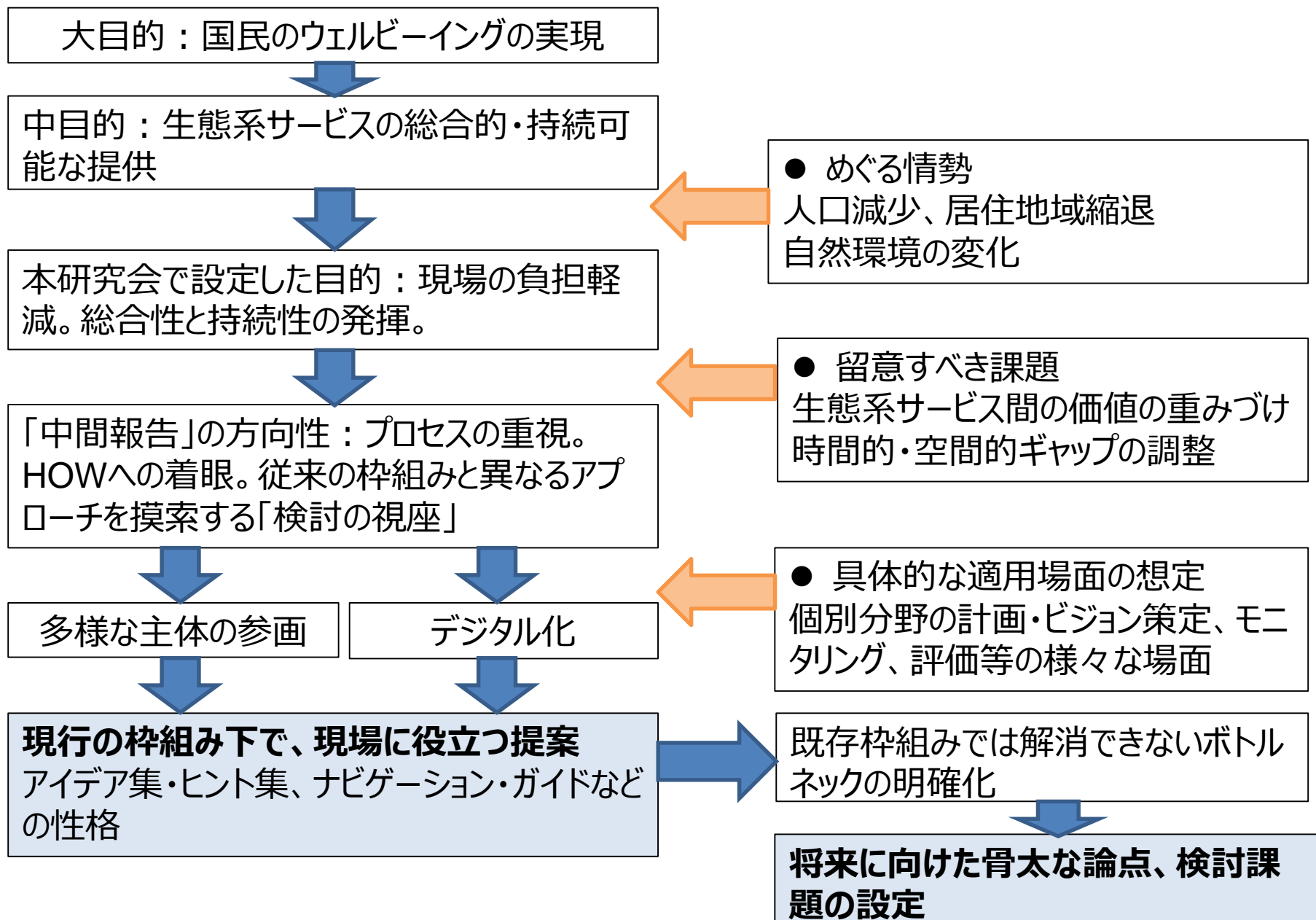
2023年5月

自然資本のマネジメントに関する研究会

研究会の進め方（イメージ）



中間報告の内容の再確認と最終報告への道筋



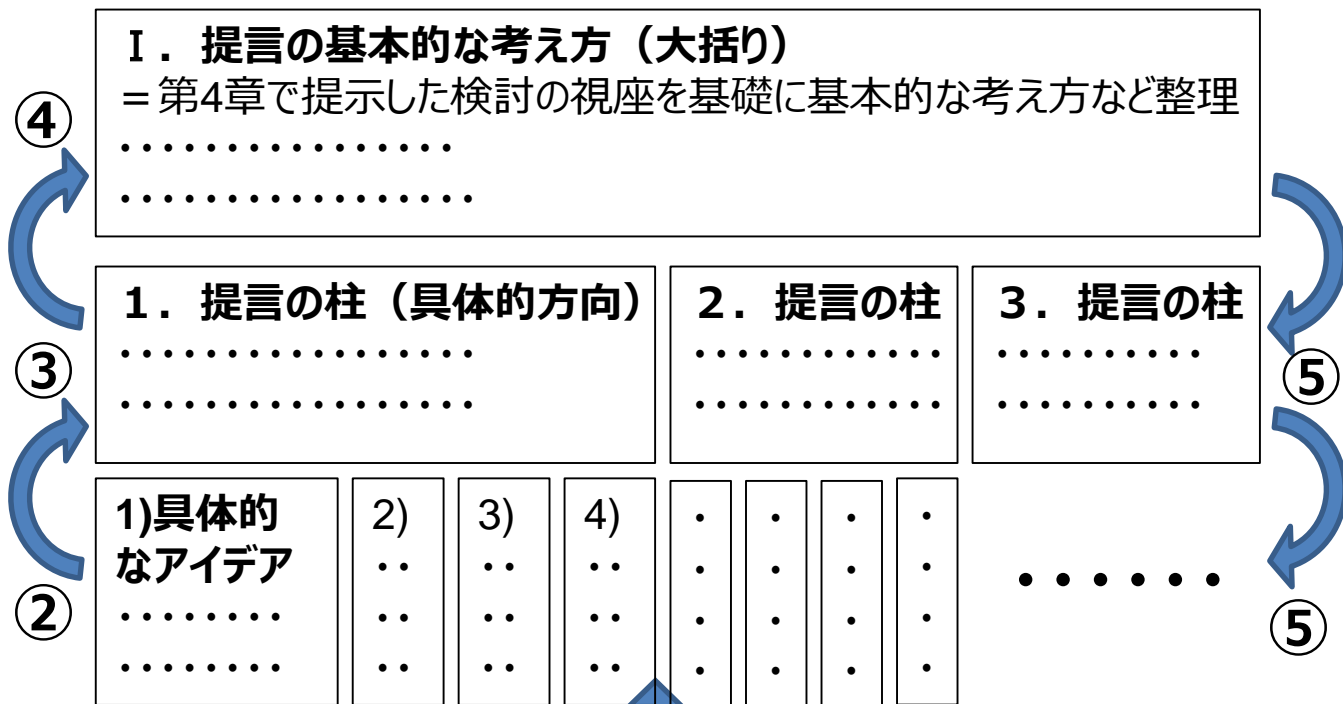
想定される最終報告の構成等（イメージ）

- 記載内容としては、①短期で具体的な効果を期待する1階部分と、②長期的にそもそも論の必要性と主な論点を提示する2階部分からなる二階建て方式を検討してはどうか。
- 短期の1階部分としては、自然資本のマネジメントに関する既存の枠組みを前提として、現場の負担を軽減し、総合性・持続性を発揮するための**個別の具体的なカイゼンの提案（プラス）省庁横断的な具体的なカイゼンの提案**としてはどうか。
- 長期の2階部分としては、既存の枠組みにしばられず、**そもそも論を展開する際の主な論点（骨太な将来方向の提案）**としてはどうか。将来的な省庁横断的な取組の検討課題、将来的に期待される調査研究の方向性等について、どこまで書くのかは、今後の検討。
- **1階部分の提案の主な相手先は、地方自治体（基礎自治体）**を想定。マネジメントの担い手として、地域コミュニティ、広域連携等の扱いを要検討。**2階部分の提言の宛先**をどう想定するか検討（世の中全体に投げかける方向が一案）
- **最終報告のクレジット**をどのような表現にするかなどについて、**今後検討が必要**。

1階部分：カイゼン提案取りまとめプロセスのイメージ

自然資本のマネジメントに関する研究会「中間報告」第4章で提示されている「検討の視座」を基に、

- ①まずは、その視座を各分野での具体的な取組に反映するアイデアを頭出し、
 - ➡②出て来たアイデアをベンチマークにして横展開や、横断的な新たな括りのアイデアの検討、
 - ➡③①・②を包含する提案の柱建てを検討、➡④一連の検討を踏まえて提案の骨格を充実、➡
 - ⑤④を踏まえて、柱建てや個別のアイデアのブラッシュアップを実施。
- (➡このプロセスを通じ既存枠組みでは解消できないボトルネックを明確化、骨太論点の議論へ)



中間報告は、自然資本の要素横断的なまとめ方をしているため、具体性はこれからという状態。

最終報告では、プロセス重視の提案として基本的な理念・方向性を伝える部分と、実際に現場の役に立つ具体的な提言の部分とともに備えている必要。

例えば、左図のように、基本的考え方を示す部分、具体的な方向性を示す部分、例示としての具体的なアイデアを並べる部分というような構成を想定して検討をすすめてはどうか。

① 検討の視座を踏まえて、各分野での具体的なカイゼンのアイデアをたたき台として提案。

「中間報告」に基づくアイデア出しのポイントに関する一覧表

参考番号	検討の視座（概要）、アイデア出しの際の着眼点・検討方向	備考
1. -③	順応的なマネジメント。社会実験、アジャイル型の開発を実践。	
1. -④	複層的に関わる圏域間、主体間で調整、協調する必要。持続性、資源循環で共通する取組（圏域構想等）について、シナジー発揮の検討。	
1. -⑤	地域の独自性、自律性の尊重。民間の経済活動の重視。利他性、互酬性にも着目。	
2. -①	多様な関係者の中で対話と合意形成を行う仕組みのデザイン、運営が課題。 将来世代の観点：シナリオプランニング、フューチャーデザインなどの手法や、シミュレーションの技術の導入の検討。	
2. -②	多様な主体が、それぞれの特性に応じて参画（マネジメントのためのリソース（ヒト、モノ、カネ、情報）を提供）できる仕組み。関係人口の関わり方や、リアルな参画と融合可能なバーチャルな参画などの切り口。	
2. -③	意思決定ステージと対策実践ステージを連動して、プロセスをデザイン。 マネジメントに関する義務と権利の関係も整理して、参画のあり方を検討	
3. -①	意思決定ステージでは、可視化による関係者の意識啓発、対話の促進。シミュレーション結果や対策の選択枝案を提示、判断材料に活用。	
3. -②	対策実践ステージでは、進ちよく管理などの高度化・迅速化。 住民参画型のモニタリング手法導入。新たなリソースの呼び込み、効率的な活用など。多様な主体の自律分散的な参画や、顕彰のフィードバック。	
3. -③	新たな参画スタイル（カネ、モノ、情報面での新たな手法による貢献。利他性・互酬性への顕彰などによるインセンティブのデザインなど）の検討	
3. -④	柔軟性（順応的なマネジメント手法）、謙虚さを意識。リテラシーの問題、モラルの問題などの検討。	



アイデア出し（A4で1枚程度）の考え方について

- 「中間報告」第2章、第3章では、関連する政策の現状・課題、研究動向について、棚卸しを行ったところ。それらについて、第4章の検討の視座を適用し、自然資本のマネジメントに関して、現場の負担を軽減し、総合性・持続性を発揮するためのカイゼン提案のアイデア（素案）を書きだしてみてください。
- その内容は、箇条書きベースでも結構です。既存のグッドプラクティスでも、まだ実例はないが、今後期待される取組みでも結構です。また、必ずしも個別事業レベルである必要はなく、メンバー各自のご判断で自由にたたき台を出していただいて、ベンチマークとして意見交換の素材としていただきます。
- 以下に、第4章「検討の視座」から論点を抽出した問をいくつかあげておきますので、アイデア出しの際にご参照ください。今年度、第4章で提示した全ての視座（文中の課題。前頁の一覧表を参照。）について、何らかの形で、皆さんと意見交換を行なうことが必要との認識です。

順応的なマネジメント、社会実験、アジャイル型の開発を採用することが期待される場面はないですか？

複層的に関わる圏域間、主体間で調整、協調を行い、負担軽減やシナジー発揮を実現している例はないですか？

経済活動の一環としてのマネジメント、利他性、互酬性を利用している事例はないですか？

多様な関係者の中で対話と合意形成を行う仕組みで、他の参考になるものはありますか？
シナリオプランニング、フューチャーデザインなどの手法や、シミュレーションの技術の導入の事例はありますか？

多様な主体が、ヒト、モノ、カネ、情報を提供している仕組みはありますか？

自然資本に関する義務と権利の関係を踏まえて、多様な参画のあり方が整理され、他の参考になる事例はありますか？

デジタル化による意識啓発、対話の促進、シミュレーション結果の判断材料としての活用などの事例はありますか？

デジタル化により、対策の進ちよく管理、新たなリソースの呼び込み、効率的な活用などを実現している例はありますか？

デジタル化で、カネ、モノ、情報面での新たな調達手法、利他性・互酬性を活用している事例はありますか？

デジタル化に関して、リテラシーの問題、モラルの問題などに取り組んでいる事例はありますか？



カイゼンのアイデア（たたき台）の様式

該当分野	カイゼン提案（事項名）	カイゼン提案の概要	備考
<p>第4章のどの分野に該当するか。P7の参考番号を記入（複数番号も可） ➡取りまとめの際の分類に活用します。</p>	<p>カイゼン提案の事項名（タイトル）を記入。 分類ための便宜上のものと想定します。</p>	<p>カイゼン提案の概要を記入してください。他の研究会メンバーがベンチマークとして参考に出来るよう、ある程度内容が分かる表現、かつ、可能な範囲で簡潔な表現をお願いします。</p>	

骨太の論点の仮提案の様式

骨太の論点（2階部分の議論のネタ）については、1階部分の検討で顕在化する、現行の枠組みで対応できない課題として年度後半に議論する予定です。他方で、1階部分の検討の早い段階から、骨太の論点を意識しておくため、メンバーによるオンライン講演等の機会も設定する予定です。

現時点で、既に、骨太の論点をイメージできているというメンバーの方に置かれては、以下の様式もご利用いただいて、仮のご提案をお知らせいただくよう、お願いします。

該当分野	骨太の論点案 (事項名)	骨太の論点の概要（提案の背景を含む）	備考
骨太の論点は、既存の制度の枠にとらわれないので、第4章の分野に該当しない場合も多いと想定します。 仮に、第4章の分野に該当する場合は、P7の参考番号を記入（複数番号も可）	既存の枠組みに囚われない骨太の論点の案について事項名（タイトル）を記入。分類ための便宜上のものと想定します。	骨太の論点について、記入してください。具体的に、どのような議論がしたいのか、既存の枠組みで対応できない問題点は何か、将来方向としてどのような対応が考えられるのかなど、可能な範囲で記入してみてください。	